

# 小屋瀬中学校特設柔道部 3人で全国の大舞台へ



7月13日、14日に開催された第71回岩手県中学校総合体育大会柔道競技で小屋瀬中（木村洋校長、全校16人）の中村暖天さん（3年）が男子個人50kg級、南館若さん（3年）が女子個人40kg級、釜石絢星さん（2年）が女子個人52kg級でそれぞれ優勝し、東北大会および全国大会への出場を果たしました。

町内の中学生が全国大会へ出場するのは、現在小屋瀬中特設柔道部のコーチを務める中村花愛さん（当時江刈中）が柔道競技で出場してから20年ぶりとなります。

小屋瀬中特設柔道部は部員6人で、練習場所は同校体育館のステージ。加えて週2回の町柔道協会の練習への参加など、地道な練習を積み重ねてきました。また、練習や大会での積極的な声掛けなど個人だけではなく、チーム力の向上にも取り組んできた成果が、3人で全国大会出場という快挙につながりました。

コーチの中村さんは「柔道は基本



が大事だが、練習は地味で普通はやりたくない。しかし3人は基本練習にもしっかりと取り組める」と3選手の強みを話します。

## 全国の大舞台へ

全国大会は8月20日から23日、長野県立武道館で開催され、22日に女子個人戦、23日に男子個人戦が行われました。3選手とも全国の大舞台で堂々の戦いをし、さらなる目標につながる経験となった様子でした。

3選手は7月22日、くずまゐるを訪問し、鈴木重男町長に全国大会への出場を報告しました。

鈴木町長は「3選手が全国大会へ出場することは快挙。町の新しい歴史をつくってくれた。全国大会では練習で培ってきたことを出し切り、堂々と戦ってきてほしい」と3選手を激励しました。部長の南館若さんは「応援してくれる仲間や先生、家族、地域の方への感謝の気持ちを忘れずに戦ってきてほしい」と全国大会への意気込みを力強く話しました。



県大会の賞状を手に笑顔の皆さん

## 女子個人52kg級



あやせ  
釜石絢星さん  
(2年)

## 悔しさを強さに

8月22日、3選手のなかで最初の登場となった絢星さんは1回戦、静岡県代表選手と対戦しました。試合開始1分30秒で相手に抑え込まれる展開となるも耐えてピンチを切り抜けると、持ち味の攻めの姿勢を見せ戦い続けました。結果は延長戦の末、相手の技ありで敗戦。試合後には「思うように技を出せなかった」と悔しい表情を見せましたが、来年度に向けては「なぜ負けたのか分かっている。全国の選手に負けないようにトレーニングをしていきたい」と決意を話してくれました。

2年生で全国大会を経験した絢星さん。さらなる活躍への期待が膨らみます。



2回戦からの登場となった若さんは、8月4日から6日に福島県で開催された東北大会で県大会に続き優勝。自信も力に変えて初戦に臨みました。対戦相手は1回戦を勝ち上がった三重県代表選手。積極的な攻撃を仕掛ける相手選手を冷静にさばき、技をかけるも決着は付かず、延長戦へ。5分を超える長い戦いの末、惜しくも反則負けとなりました。

「県や東北大会よりも会場の圧があった」と全国大会ならではの雰囲気を感じた若さんは「試合を楽しみたいと臨んだが、勝ち負けを気にしてしまっただけ」と涙ぐみながらも、高校でも柔道を頑張りたくて決意を新たにしました。

## 女子個人40kg級



わか  
南館若さん  
(3年)

## 粘りの5分間

8月23日、1回戦は神奈川県代表選手と対戦。試合時間の3分間、お互い譲らない展開のなか延長戦開始直後、技ありで優勢勝ち。2回戦は北海道代表選手と対戦。1本負けを期すもコーチであり母でもある花愛さんの悲願でもある初戦突破を果たしました。「初戦の相手は名門道場の選手だったが、自分がどれだけやれるのか試したかった」と試合を振り返り「悔いは残るが目標だった初戦突破と全国大会のレベルを知れたことが良かった」と成果を話す暖天さん。

「後輩たちは来年再来年とチャンスがある。全国大会へ出場して結果を残してほしい」と話し、後輩に熱い思いをつなぎました。

